



# 経済同友会インターンシップ、新たに「合同事後研修」を加えて充実

実習先企業・所属大学の垣根を越えた「学び」と「出会い」の場を提供

経済同友会インターンシップ推進協会は、今年新しく、各社で夏の実習を経験した実習生全てを対象に「合同事後研修」としてフォローアップ研修を実施した。また、昨年度、コロナ禍の中でオンライン実習を実施した経験を踏まえ、オンラインや対面、これらを組み合わせたハイブリッド方式などによるインターンシップを展開した。12月6日には完全オンラインによる「2021年度実習成果報告会」を開催、企業3社と1大学が事例報告などを行った。



緊急事態宣言下の2021年夏  
オンラインの活用により  
前年度から参加者倍増を実現

横尾 敬介

経済同友会インターンシップ推進協会  
代表理事  
経済同友会 終身幹事

経済同友会は2019年4月、経済同友会会員の所属企業と全国の大学・高専をつなぎ、望ましい産学連携教育を実施することを目的として、「一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会」を設立した。

2022年1月末現在、趣旨に賛同された企業25社、大学18校と国立高等専門学校機構が正会員として、また、準会員として3社1大学に、さらに賛助会員として日本学生支援機構に入会いただいている。

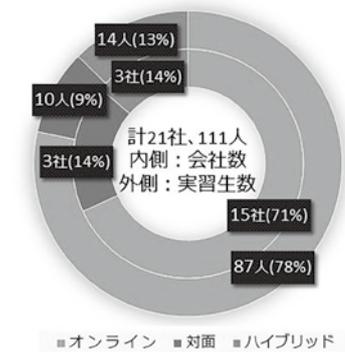
2020年度はコロナ禍という未曾有の状況下で、当初予定していた実習生が、残念ながら学びの機会を失うこともあった。

2021年度は、「学生の学びを止めてはならない」という観点から、従来から実施していた対面型の実習に加え、昨年度から導入したオンライン実習や、対面型とのハイブリッドなど、工夫を凝らしてインターンシップを実施した。その結果、昨年度は11社16大学1機構、学生61人の参加だったのに対し、今年度は21社17大学1機構、学生111人の参加を確保することができた。

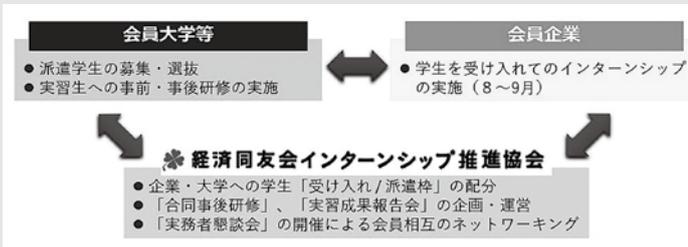
実施方法別の内訳は、オンライン15社87人、対面3社10人、ハイブリッド3社14人となり、ウィズコロナ期におけるインターンシップ実施を確立することができた。

今後も、時代の変化に柔軟に対応しつつ、経済同友会インターンシップのさらなる充実を図っていきたい。

2021年度実習実施方法の内訳



## ◆経済同友会インターンシップ制度の基本枠組み



- ①対象は大学1・2年生(高専は本科4年生・専攻科1年生) 早い時期からキャリア意識かんようを涵養。
- ②大学・高専は単位認定を行い、正課教育の一環として位置付け 選考に合格した意識の高い学生が参加する仕組みを実現。
- ③期間は原則4週間 実習期間は原則4週間を確保、2020年度以降はオリパラ、コロナの影響により、原則2週間以上。
- ④実習にかかる交通費・宿泊費は企業負担

# 「合同事後研修」を新たに加えて 大学・実習先企業を越えた交流機会を提供

今年度のインターンシップでは、さらなる教育効果向上のため「経済同友会インターンシップ」全実習生を対象とする「合同事後研修」を新たにスタートさせた。

学生は各大学において事前研修として実習目標の設定や実習先企業を研究した上で各社の実習に参加している。これまで、同じ企業での実習に参加した学生同士には、深い絆が生まれていた。また、各大学で事前研修を共に受講する学生同士も交流の機会があった。

しかし、別々の企業で実習を受けた他大学生との間に交

流機会はなく「経済同友会インターンシップ」実習生としての一体感や、帰属意識の醸成が難しかった。

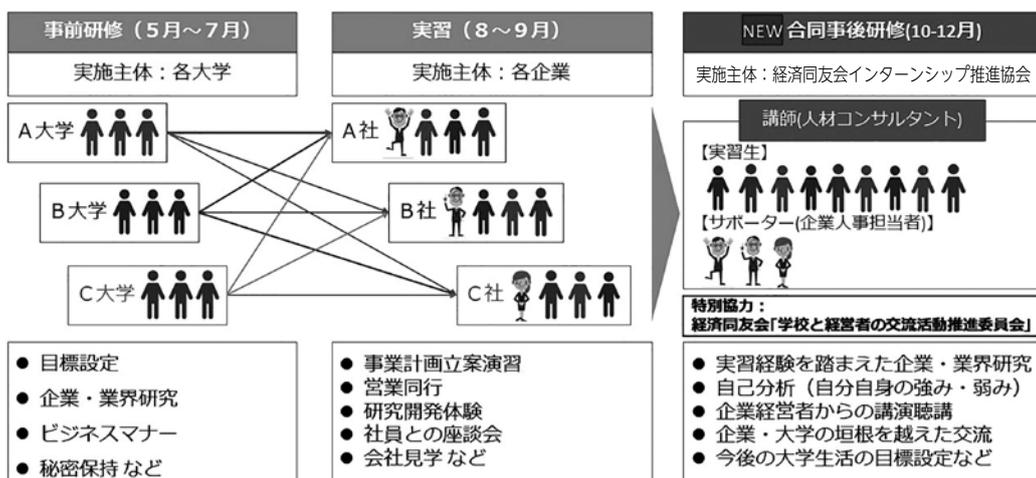
「合同事後研修」は、各社で夏の実習を経験した全ての学生を対象とし、これまで知り合う機会がなかった他企業での実習に参加した他大学生や、実習参加企業以外の人事担当者との出会いの場を提供するものである。また企業での就業体験によって得た「気付き」を、実習生が整理・統合することで自らのキャリア形成に向けた行動変化につなげていくための機会を提供するものでもある。

## ■2021年度合同事後研修 ※オンラインで開催

| 第1回<br>インターンシップの振り返り  | 第2回<br>今後のキャリアデザインを描くために   | 特別編<br>企業経営者によるキャリア講演会  |
|---|--|---|
| 10月11・13・15日開催<br>学生67人出席   | 12月13・15・17日開催<br>学生51人、企業担当者延べ16人出席   | 11月10日開催<br>学生46人、教職員15人出席  |
| <b>【内容】</b><br>横尾敬介代表理事による挨拶、人材コンサルタントによる講演など実習の振り返りと組織で求められる力について考察<br><br><b>【参加学生の声】*</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>企業の調べ方やインターンシップの振り返り方など、丁寧に分かりやすく教えてくださったことが良い点と感じた。また、学生側の進行状況を見て、時間をかけて教えてくださったので、焦らずワークに取り組むことができた。</li> <li>グループワークで他の企業のインターンシップに参加された学生の方々が、どのような経験をされたのかを話を聞くことができた。</li> </ul> | <b>【内容】</b><br>人材コンサルタントによる講演と参加企業からのアドバイスなど<br><br><b>【参加学生の声】*</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>証券会社で実習させていただいたが、事後研修では別の証券会社の方とお話できて、同じ業界でも違う企業のお話をお伺いできて勉強になった。</li> <li>他の実習先の学生のお話を聞くことで、違う方向からも自身のキャリアを考えることができた。</li> </ul> | <b>【内容】</b><br>林礼子氏による講演(P.05参照)<br><br><b>【参加学生の声】*</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな社会の状況に取り囲まれながらも、自分の仕事に向き合うその経歴や、取り組み方がとても参考になった。コロナ禍など、あり得ないと考えていた社会情勢の変化が実際に起きる今日、このような経験を聞いたことは大きなプラスだったと思う。</li> <li>私は、インターンシップを通して将来の進路について考えるきっかけをもらった。しかし、選択肢が増えたために、どのように進路を選択してよいか分からず、困っている中で、一つの指針ができたと感じる。大変有意義な時間だった。ありがとうございました。</li> </ul> |

\* アンケート結果から一部抜粋

## ■2021年度経済同友会インターンシップの流れ



## 合同事後研修 特別編 企業経営者によるキャリア講演会



合同事後研修の特別編として、2021年11月10日、本会会員の林礼子幹事の講演会を開催、学生、大学関係者61人が参加した。講演では、自分らしいキャリアをどのようにデザインするのか、働くことの意義とは何かなどについて自身の経験を振り返り、実習生に語った。

### 講演 (要旨) 自分らしいキャリアを どうデザインするか

林 礼子

BofA証券 取締役副社長  
経済同友会 幹事  
学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長



#### 37歳で仕事に向き合う

私は1987年に銀行の業務も何も知らずに米系の銀行に就職した。中学生のころから国際機関で働きたいと思っていた。国際機関で働くためには留学は必須だと考えていたが、家族の理解が得られないこともあり留学はかなわなかった。それならば女性にも留学制度のある企業を考えていたところ、大学の先輩が同行からハーバード大学に留学し、活躍しているという話を聞いて同行に就職したきっかけになった。ところが、金融危機が起き、留学制度がなくなってしまった。夢破れ、親に急かされたこともあり結婚し専業主婦となった。しかし時間を持て余し、銀行時代の友人の紹介で欧州系の銀行に入行し、秘書業務に就いた。そのうち上司がスイスに帰国し、今度は資本市場の仕事を任されてしまった。見よう見まねでこなしているうちに、だんだん仕事を覚えたが、同じ案件にかかわっていたメリルリンチ\*に誘われて転職し、今日に至っている。

転職時は37歳だった。振り返れば、そこから仕事に本格的に向き合う転職だったかと思う。今はESGやSDGsなどトレンドにどっぷりつかり、行政の有識者会議やグリーンイノベーションにかかわる委員会などにも呼ばれるようになった。やりたいと思っていた国際機関の仕事に、結果として携わっている。

#### さらに世界は変動する

就職した当時の企業の世界時価総額ランキングを見ると、20位内の半分が日本の企業であり、しかも銀行が占めていた。2021年はGAFANAなどの企業が上位にあり、わが社バンク・オブ・アメリカは19位。20位内は全て海外の企業である。でも今後どうなるのか、誰にも分からない。

数年前、教育関係者と経営者とで、これから社会はどうなるのか議論したとき、グローバル化が進展しヒト・モノ・

カネの移動が加速する、第四次産業革命が起きる、さらに国家では制御できないことが増えるといった話をした。当時感染症を直接意識していなかったが、実際に今起きている。人の移動は、加速どころか超減速してしまった一方、テレワークなどバーチャルな世界での移動が加速している。気候変動、格差や長寿社会、人口増加などの課題も続く。米国と中国の関係などで世界の動きが変わっていく。日本は高齢社会となり、海外人材を受け入れていかななくてはならなくなった。加えて財政赤字や年金問題などいろいろな課題がある。皆さんが巣立っていくのはそういう社会だ。

#### 変化に対応できる力を付ける

私の最近の「野望」は85歳ぐらいまで働くことだ。私自身、これから何のために働いているのか、どうしたら社会に求められる人材になれるのか常に考えている。弊社では「What would you like the power to do?」(あなたはその力を何に使いたいですか?)というスローガンがある。これはCEOが社員に対していつも問うていることだ。私の場合、留学したいというだけで就職して20年以上働き、今やっと自分が小さいころからやりたかったことに近づいた。自分がやりたいことを常に意識しながらチャンスをそれなりにつかんできたと思うが、いろいろな人に相談し、声を掛けてもらえた。自分の力というより人に助けられて今日があると思う。

社会に求められる力とは、変化に対応していける力ではないだろうか。私もさまざまな文化や習慣を持っている人たちと議論を戦わせながら仕事をしているうちに、新しいことに出会っている。皆さんは多様な人たちと仕事をしたり、あるいは日本を離れて仕事をしたりすることになる。

また、働くことの基本的な意義は自身の力で生活を成り立たせることであり、その先に、誰かのために役に立つことを見つけること。弊社の昨年のアニュアルレポートの表紙には「Coming Together in New Ways」とあった。このことは決して一人で全ての課題を解決することはできないから、みんなで解決していきましょうという弊社のメッセージだ。まず自分がいったい何者なのか、インターンシップなども通して学生の間で新しいことを発見し、いきいき働ける素晴らしい職場に巡り会えることを祈っている。

\* BofA証券の前身の会社



「2021年度実習成果報告会」では協会会員を代表して企業3社と1大学の事例報告が行われた。

### 企業／大学等事例報告(要旨)

#### ケマーズ

越邑 由香子 氏

HRBP



#### 「化学メーカーとしてSDGsにどう貢献すべきか」をテーマに本社と工場多彩なプログラムを実施

8月23日から9月3日まで、実質10日間のインターンシップを実施した。当初は対面とオンラインの併用を計画していたが、7月になって全面オンラインに切り替えた。プログラムの前提として重視したのはSDGsだ。「(フッ素)化学メーカーとしてSDGsにどう貢献すべきか」という最終発表のテーマを設定し、それに沿って「地域とのパートナーシップを強化し、地域・社会貢献を継続していくためには？」「素材を通して、社会への価値提供を継続・成長させていくためには？」「ヴァリューチェーンにおけるパートナーシップはどのような効果をもたらすか？」などのサブテーマを6人の実習生がそれぞれ選択し、そのゴールに向かってインターンシップに臨んだ。

ケマーズおよび三井・ケマーズフロプロダクツにおいて講義や参加型の実習、スライドによる工場見学などを行った。「働きがい」に関するワークショップでは、実習生から「目に見えないやりがいは実際に働いてみないとわからないと気づいた」「働きがいについて曖昧な概念しか持っていなかったことで、自身の考えをしっかりと形にするとともに、他の考え方を知り取り入れることができた」などの声が寄せられた。

また、米国のGlobal CEOとの質疑応答を英語で行い、実習生からは「海外や世界規模の視点からビジネスや市場について聞くことができた」「質問に対して丁寧に答えていただいて、外資系企業で求められているものがどういったものなのか学ぶことができた」などの声が寄せられた。さらに、代理店・海外拠点との打ち合わせについても、「国内と海外では会議の流れと出席者の積極性が違うことを学んだ」「スピードと成果を常に意識し、個々がつながってチームとして一つのものを作り上げるのがビジネスなのだ」と体感し、求められている力や考え方について、学生と社会人の違いを認識した」などのポジティブな反応があった。

#### 多くの気づき、キャリア形成に向けての成果もあった

今回のインターンシップを通して、実習生にはさまざまな変化、気づきがあった。「素材をつくる製造業に対する認識がインターンシップ前後で大きく変化した」「全体を通して想像以上の学びがあり、自身の変化では苦手なディスカッションが楽しくなった」「『働く』ということに新たな価値観を持つことができた」といった実習生の感想が、それを裏付けている。

キャリア形成に向けての成果もあった。実習生からは「自分のワークライフについてリアルに想像でき、働きやすい制度や業界についての知識を得た」「グローバル企業や環境に大きな影響を与えられるという観点でこれから企業研究を進めていきたい」「就活では目に見える情報だけで判断するのではなく、インターンシップや説明会を通じて正しい情報か吟味し収集することで、働きがいがあるか見極めたい」などの感想があった。

今回は全面オンラインだったが、社員からも「対面とオンラインの長所を活かすプログラムが良い」「オンラインだと移動時間もなくて詰め込み過ぎた感がある。もう少し対話の時間を増やしたい」などのフィードバックもあった。次回以降に活かしたいと考えている。

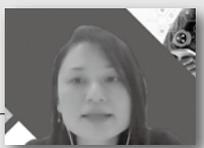
#### 最終発表テーマ

| 大学     | 学部・学科    | テーマ  |
|--------|----------|--|
| 小樽商科大学 | 企業法学科 2年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>素材を通して社会への価値提供を継続・成長させていくためには？</li> <li>地球環境への直接影響を極力抑え持続可能な社会に貢献するためには？</li> </ul> |
| 新潟大学   | 農学部 2年   | <ul style="list-style-type: none"> <li>素材を通して社会への価値提供を継続・成長させていくためには？</li> </ul>   |
| 上智大学   | 経済学部 2年  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球環境への直接影響を極力抑え、持続可能な社会に貢献するためには？</li> </ul>  |
| 工学院大学  | 建築学部 2年  | <ul style="list-style-type: none"> <li>素材メーカーにおいて誇りを持って働くためには？-「働きがい」</li> </ul>   |
| 龍谷大学   | 国際学部 2年  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヴァリューチェーンにおけるパートナーシップはどのような効果をもたらすか？</li> </ul>                                     |
| 九州大学   | 法学部 1年   | <ul style="list-style-type: none"> <li>素材を通して 社会への価値提供を継続・成長させていくためには？</li> </ul>  |

## イオン

三村 瞳 氏

人材育成部 採用グループリーダー



### 将来におけるキャリア形成、社会人意識の醸成を目的に三つの柱でカリキュラムを構成

イオンは八つの事業、約300社からなる総合グループ企業だ。グループの多岐にわたる業種・業態を理解し、多様な人と触れ合い、将来におけるキャリア形成、社会人意識の醸成を目的に、8月16日から20日までの5日間、経済同友会のインターンシップに初参加、全日程をオンラインとした。カリキュラムは、①多様な業態・企業を理解することで、世の中の動きを理解する、②イオンの「理念・価値観」を理解し、どのように具現化しているかの理解をする、③多様な人材（学生・社会人）と触れ合い、多様な価値観を醸成するという三つの柱で構成した。

主な学びとしては、まず企業の根底を知るために、本来なら実際に足を運んでもらいたいイオンの歴史館をバーチャル訪問してもらうとともに、私たちが大切にしているサステナビリティの取り組みについて理解し、企業の根底を知ってもらった。次に世の中の流れやサプライチェーンを理解してもらうために、グループ内にある、生産、製造（メーカー）、物流、小売の各企業の取り組みを体感体験してもらった。多様な価値観を醸成するために、初日からチームワーク、チームディスカッションなどを実施しチームでの対話を行い他大学生と交流することで、自分やチームの強み弱みを知り、お互いにフィードバックし合える関係性を築いてもらった。また座談会の場を設けるなど、学生が自身のキャリアのイメージを膨らませられるよう、プログラム全体を通じてイオングループから6社を経験するとともに9社20人の多彩な先輩社員との交流も図った。

### 今後はハイブリッド形式も模索したい

オンラインでの実施ということで、VRやVTR、中継などを駆使し、現場にいるのと同様の学びを提供する工夫をした。また、ランチタイムにグループメンバーだけのブレイクアウトの場を設けるなど、チームでのコミュニケーションがとれる機会を創出することも心掛けた。さらに、オンライン開催の中でも学びを深めるため、各人が毎日の目標設定および振り返りを行う時間を設けた。

学生からは、「利益を求めながらもお客さま第一の理念のもと、誰かの役に立つ仕事ができるということ学んだ」「社会人として基礎的な部分から戦略などの実践的なものまで、

幅広い内容を学ぶことができた」「目標設定、振り返りを習慣的に行うことで、自分の改善点を把握することができ、学びを深めることができました」などの声が寄せられ、私たちの意図がしっかり伝わったと感じている。

オンラインでは、遠方の社員の参加が可能となる、バーチャルや映像を活用することで移動時間削減につながる、Teamsなどのコミュニケーションツールを活用することでグループワークを効率化するなどの効果があった。一方で、対面に比べてディスカッションの熱量が減少傾向にあったり、店舗訪問など五感で感じてもらいたい部分はリアル感が薄れたり、対面に比べてメンバー間の親密度が低くなるなどの課題があった。今後は安全面を確保した上で、ハイブリッド形式も模索したい。

| プログラム    |   |
|----------|---|
| 日程       | 実習概要  |
| 8月16日（月） | 「イオングループを知る」<br>・チームビルディング<br>・イオンの歴史館バーチャル訪問<br>・イオンの戦略・方向性の理解                                 |
| 8月17日（火） | 「企業が大切にしている価値観を知る」<br>・イオンのサステナビリティの考え方、取組み<br>・安全安心を提供するための仕組み<br>・お客さまの元に商品が届くまでのサプライチェーンの仕組み |
| 8月18日（水） | 「多様な事業を体感する」<br>・消費者代位のものづくり<br>・小売業の役割<br>・様々な職種の先輩との交流  |
| 8月19日（木） | 「お客さま満足を考える」<br>・課題ワーク<br>・中間プレゼンテーション  |
| 8月20日（金） | 「夢のある未来を考える」<br>・最終プレゼンテーション<br>・振り返り   |

## アスクル

大木 祐哉 氏

人事総務本部 人事採用



### 「ECにおけるビッグデータ活用（解析）を学ぶ」をテーマに、「考える」ことを重視したワークを実施

今回は、9月6日から10日まで、ZOOMによる完全オンラインで実施した。当社では、2025年までにオフィス通販からのトランスフォーメーションを成し遂げる目標を掲げており、その全社方針を受けてDX人材の採用・育成が人事の重点項目に位置付けられている。そこで、インターンシップでは「ECにおけるビッグデータ活用（解析）を学ぶ」をテーマとした。

プログラムでは、当社が展開するBtoCサービスのLOHACOを題材として、「顧客満足度が高まる体験とは何か」を考えてもらうワークを行った。オンラインでも「考える」ことを大切に活発な議論を実施、また、疑問点はチャットツールを用いて、社員にも積極的に質問できるようにした。発表は、限られた時間の中だったが、各班がパワーポイント

トを使って分析結果と考察内容を発表しただけでなく、一歩進んで新しいサービスの提案をする場面もあり、社員が驚くシーンも見られた。

実際に参加した学生からは、「企業の戦略分析の実態を知ることができた。大学の講義と、実際の経済学と統計学が、今回のインターンシップを通して一本の線になったような気がする」「刺激的な時間で本当に濃い5日間。データ分析していくことにやりがいを感じることができ参加して本当に良かった」といった声をいただいた。考えることや議論することを重視したため、「コミュニケーション力に成長の手応えを感じた」という声も多かった。

### 開催にあたっての五つの壁を乗り越え

開催にあたっての壁もあった。まずは初挑戦の壁。低学年層に向けたインターンシップを行うことが初めてであり、どんなコンテンツ、参加要件にしたらよいか想像がつかない状態だった。大学や協会の皆さまへご相談・ヒアリングを行わせていただき、プログラムや募集要項の調整を行った。二つ目はテーマ設定の壁だ。せっかくの機会だけに、より実務に近い業務体験をしていただきたいものの、人事メンバーだけではコンテンツ作成は困難だった。これについては部門に取り組みの目的・意図を説明し、協力を依頼し、プログラム作成から当日の対応まで協業した。

三つ目は学生の習熟度の壁だ。学生の専門分野が異なり、習熟度にばらつきがあった。これに対しては「事前課題図書」を用意し、「事前質問会」を開催することで、未経験の方でもなるべく安心して参加いただけるように事前準備した。四つ目は継続接点創出の壁である。学生、大学との接点をインターンシップ限りにしたくないという思いがあり、各学校での学内報告会に向けて情報共有や質問のための「フォローアップ会」を開催。また、大学の皆さまには、今後も学生のキャリア形成において、一緒に取り組みができないか、ご連絡させていただいた。最後の壁はモチベーションの壁だが、オンライン開催であること、参加学生の様子が分からないことから、私自身初めはとまどった。しかし、学

生の志望動機を読んだとき、事前質問会で顔を合わせたときに、一つでも多くの学びや発見のあるインターンシップにしたいと思った。

## 琉球大学

本村 真氏

キャリア教育センター長／人文社会学部教授



### 書類選考、面接を経て、6人の参加学生が確定。大学の学びでは得られない貴重な経験ができた

経済同友会インターンシップには昨年度から参加した。学生の選考にあたっては、意識と意欲の高い学生を選びたいということで周知した。学内にポスターを掲示するとともに、キャリア教育センターのホームページ、教務システムでのメール送付などを通じて周知を図った。メールについては、初回の反響が芳しくなかったため、2回目にはさらに工夫を凝らし、「経済同友会(上場企業)のインターンシップへ交通費の負担ゼロで参加できるチャンス!」という短く分かりやすい文面で紹介した。経済同友会のネームバリューはかなりのものがあり、教員も反応することから、こうした文面にしたものである。

また、説明会は講義の合間の平日昼休み中にオンラインでライブ配信し、説明会動画の見逃し配信にも対応した。沖縄県内出身の学生は、特に公務員志向が強いことから、民間企業の魅力を伝え選択肢を広げることを考えた。そして、昨年参加した学生の感想なども伝えながら、インターンシップの魅力を理解してもらうとともに、インターンシップ後には大きな変化があり、学習プランニング、キャリア形成の上でも大きな意味があることを強調した。参加企業についての情報も、キャリア教育センターで分かりやすくまとめた内容を提示するようにした。

こうした取り組みの結果、58人の応募があり、書類選考、面接を経て、6人の参加学生が確定した。選考にあたっては、授業の一環として行っていることから、書類選考では授業目的と合致しているか、履修目標の達成難易度は妥当かなどさまざまな角度から判断した。また、面接については、書類選考可否から面接日までの短期間に情報収集や新たに準備したことはあるか、他大学からの代表で集う学生や企業担当者に対して「あなたが役立てられること」や、学内の受講学生へ「良い刺激として与えられること」は何かなどを質問した。幸いにもインターンシップ後の企業の評価は高く、それぞれが多くの学びを得ることができたようだ。学生の一人は1年生だったが、堂々とした発表を行い、成長を感じる事ができた。

#### 【ワークプログラム概要】

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| ワークテーマ | 「顧客満足度が高まる体験とは何か」                 |
| 発表内容   | データから見つけ出した、顧客満足度が高まる“体験/特徴”とその理由 |
| 事前課題   | 課題図書1冊『スッキリわかるSQL入門 第2版』          |
| ワーク形式  | グループワーク(2班)                       |
| ワーク環境  | GCP (Google Cloud Platform)       |

#### 【全体スケジュール】



## 事前研修、事後研修で、行動変容につなげていく

本学ではインターンシップは、実習を挟んで事前・事後研修を行う。事前・事後研修ではプレゼン発表を通じて内容や経験を言語化するトレーニングが集中的にでき、また、その発表について他者から質問されることで、自分が思い至らなかった強みと課題を知ることができた。最終的な感想発表を通じて、自身の課題を明確に宣言し、行動変容につなげていくことができた。発表での収穫は「自身の課題

に気付かされること」で、人前で指摘やアドバイスを受ける恥ずかしさ・悔しさを感じた様子だった。発表を繰り返して自身と他者の成長を実感できたことで、事後研修では「挑戦してもまだ足りない」という声も上がった。

学生からは「事前研修までに企業HPなどで情報収集をしていたが、参加しないと分からなかった情報や雰囲気を実感できた」「コミュニケーション能力がなぜ必要か実感した」「今後の学生生活で挑戦したいことが明確になった」などの声が上がった。

### 事前・事後研修の効果

#### プレゼン発表+質問に答える+教員等コメント+感想発表

内容や経験を  
言語化する

他者の視点から  
自身の課題を知る

体験内の自己を客観視し、  
職業的自己概念(興味,能力,  
価値観等)を明確にする

体験や発表の振り返り  
論理的に話す工夫、  
自身の課題の宣言

#### 学生役割：①発表者②司会③質問者(発表者以外の全員)

「解釈のズレ」や「理解の曖昧さ」があっても訂正せず、「誰かが確認してくれる」という思い込みから、発表や日程調整等のあらゆる場面で、個人と全員が失敗も経験。そこから「自ら相談・調整して進めること」が定着した。

発表での収穫は「自身の課題に気付かされること」で、人前で指摘されたりアドバイスを受ける恥ずかしさ・悔しさを感じた様子。発表を繰り返して自身と他者の成長を実感できたことで、事後研修では「挑戦してもまだ足りない」という声もあがった。

#### 参加学生(6人:男子2人、女子4人)

- ・凸版印刷(2年)
- ・みずほ証券(2年)
- ・アスクル(1年)
- ・三井不動産(2年)
- ・第一生命保険(2年:2人)

## 入会のご案内

### メリット

- 経済同友会の全面的バックアップのもと、「次世代人材の育成に熱心な企業」というイメージ向上につながります。
- 自社や業界について、学生の深い理解を得ることができ、若者層への自社の認知度向上が図れるとともに、将来の採用につながる効果も期待できます。実習先への入社実績も生まれています。
- 会員相互の交流による大学のキャリア教育担当者、異業種・同業種の企業採用担当者とのネットワーク構築につながります。キャリア教育目的の当協会のプログラムは、全国の大学から支持されています。

### ◆お問い合わせ先◆

経済同友会インターンシップ推進協会事務局  
(担当:田中、南戸、江幡)

URL : <https://www.doyukai-internship.or.jp/>

TEL : 03-4582-4594 (代表)

E-mail : [kyokai@doyukai-internship.or.jp](mailto:kyokai@doyukai-internship.or.jp)

- 学生のピュアな感覚、斬新なアイデアに接することにより、指導役となる若手社員の成長にも寄与します。

「経済同友会インターンシップ」は  
SDGsの達成に貢献します。

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



- 経済同友会インターンシップは、学生の交通費と宿泊費を企業にご負担いただくことにより、学生が経済的事情に左右されず、就業体験ができる機会の確保に努めています。
- また、オンライン実習など、ICTを積極的に活用することにより、コロナ禍の中でも学習機会の確保に努めています。